

## 花ぐもり

松岡隆子

にほどりの声すきとほる抱卵季  
日の暮はおのづと寄りて春の鴨  
清明や水槽の魚ひるがへり  
届かざるところに落ちて白椿  
くれなるの極みは雨の落椿  
雨をみて初花を見てひと日足る  
木苺の花や少女の言葉過ぐ

用水のゆたかに迅し散る桜  
散る花の夕べの階は急がざる  
遠くより呼ばれてゐたる花ぐもり  
堅香子と夕べの風を頌ちあひ  
夕空のどこまで青き初つばめ

桜前線も北上し、東京では花の見ごろも過ぎつつある。普段なら花過ぎの倦怠感に捉われるところだが、この春ばかりは二週間後の七周年祝賀大会を控えて気分が昂揚している。準備はほぼ整ったとは言え、実行委員の皆さんは最終チェックに余念がない。幸い実行委員長吉田幸敏さんの句集が間もなく刊行される予定で、各賞受賞の皆さんと共に席上でお祝できるのは嬉しい。お待たせしている『岡本陣全句集』の刊行は五月の連休明けの予定で、席上でお披露目できないのは残念だが楽しみにお待ちしております。